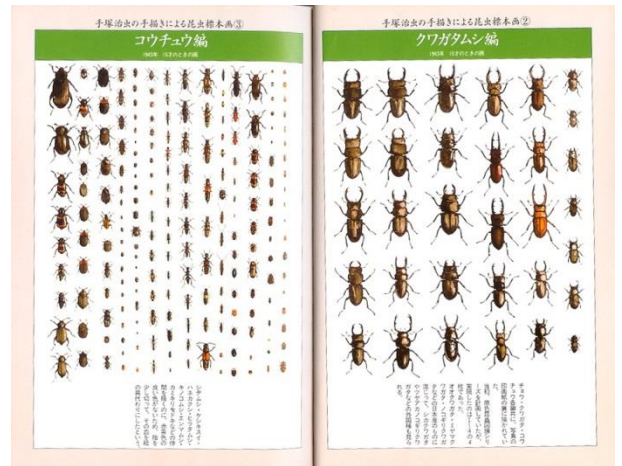


世の中には、何でもこなしてしまう多才な人や、人並みなルールから逸脱した人生を敢えて選ぶ人もいます。今回は、手塚治虫を取り上げます。

まず、名前に注目してみましょう。本名は、手塚 治。しかし、ペンネームを“治虫”としています。手塚は、小さい頃から無類の昆虫好きでした。10数歳の頃に自分で昆虫図鑑を作っているのですが、その情報量の多さも去る事ながら挿し絵の凄さといったら、、、写真と見間違ふほど。しかも実物大で描いています。その時の有名なエピソードに「いい赤がなかなか無いので自分の指から血を出して絵の具代わりにした。」とあります。中学時代に、宝塚昆虫館に通い、展示されている標本と、自分の採取した昆虫の標本を丹念にスケッチしていたそうです。その蓄積されたスケッチが、後に図鑑としてまとめられています。



オサムシ
オサムシ亜科 に属する昆虫の総称



手塚治虫の人生

1928年11月3日大阪府豊中市出身。兵庫県宝塚市で育つ。

・**幼少時代**：結構裕福な家庭だったようだ。お父さんがとても新し物好きで当時はめったになかったカメラと映写機があり治（本名）少年が庭のブランコに乗って遊んでいる姿などが納められている。

そして当時は珍しい漫画が父の本棚にあった。お母さんも優しい理解のある人。寝つきの悪い時などは本を読んであげたりパラパラ漫画を本の端に自分で描いたりしたそうだ。

・**学生時代**：大阪大学医学部（大阪帝国大学医学附属専門部）に進学。この時すでに漫画家としても活躍している。2足のわらじを履きつつしっかり大学も卒業。医学博士の免許も持っている。

・**漫画家新人時代**：漫画家を本気で目指すようになったのは戦争中の軍事専門学校時代。

こっそりと書き溜めた原稿は実に3000枚以上（！）だという。戦争中ということや、漫画自体が全く世間に認められたものではなかったので専門学校を卒業して新聞の4コマ漫画「マアチャンの日記帳」で連載をしつつも大学に通い医者の免許も取得した。そんな手塚治虫が結局漫画家の道1本にしぼる際、本気で悩んで母親に相談した時に「あなたの本当にやりたい道に進みなさい」の一言でふっきた。

漫画家として世間に認められるきっかけとなったのは「新宝島」（酒井七馬原作）という長篇漫画。今読んでも全く見劣りのしない大胆な構図は全ての人々にとって衝撃だったという。

手塚治虫は、短い期間でしたが医師として働いていました。当直の夜、患者さんが途切れた瞬間、当直室にこもって寝ずに漫画を描いていて、先輩の医師も漫画家になることを認めたというエピソードがあります。何でもこなすことができる中で、自分のやりたいことをしっかり見据えていたのですね。